

旅はここから

138 高輪中学高等学校

僕は旅に出た。何も考えずに乗った赤い電車で揺られると、白タイルがまぶしい地下駅に着いた。どうやら空港の最寄り駅のようなのだ。

扉が開くと、乗っていた人たちはスーツケースを引っ張って降りて行ってしまった。僕もそんな波に飲まれ降りてしまった。

扉が閉まり電車が出発すると辺りは静かになり、改札に IC カードをタッチする音だけが、広いホームにこだまする。

さほど時間は経ったように感じなかったが、再び電車はやってきて、大荷物を持った人達がぞろぞろと降りてくる。

彼らはせわしないように見えて、どこか表情が和らいでいるように見えた。その反面、反対のホームでは、疲れやさみしさを感じているように見えてどこか奮起しているように見える。

皆行く先は違うけれど、どこかに出発したり旅立とうとしたりしているのだろう。その先がたとえ楽しいものでも寂しいものであったとしても。

僕は旅に出た。行先の分からない長い長い人生に向かって。